

【漁況】 [マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トン进行ピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2021年は9万トンとなりました。

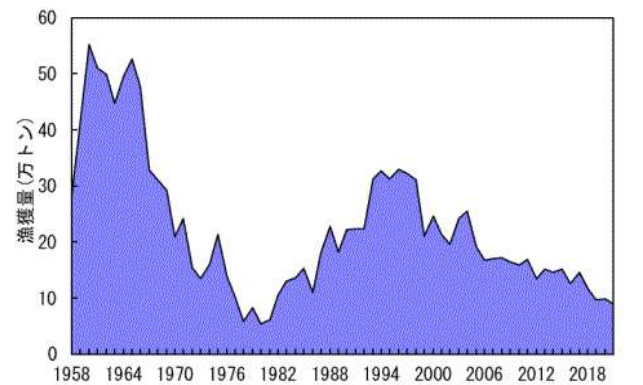


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の2023年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、10月に縄瀬、飯東で、11月に縄瀬でマアジ仔（0歳魚：2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、期間を通じてまとまった漁場形成はありませんでした。

4港計のまき網では、期全体で302トンの水揚げで、前年の32%及び平年の42%でした。

3. 県内の2024年1～3月期の見とおし

漁獲主体：マアジ小、豆（1～2歳魚：2022～2023年生まれ）

来遊量：前年，平年並

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期に引き続き、今期もマアジの2023年生まれ主体に2022年生まれが混獲されることが予測され、前期の漁況より前年，平年並と考えられます。

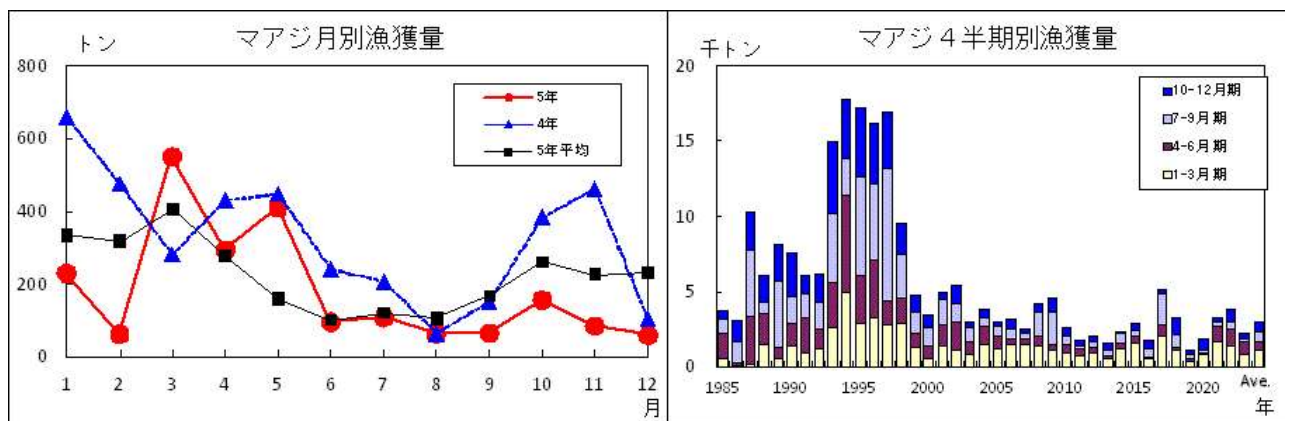


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2023年12月20日までの水揚げ量を使用

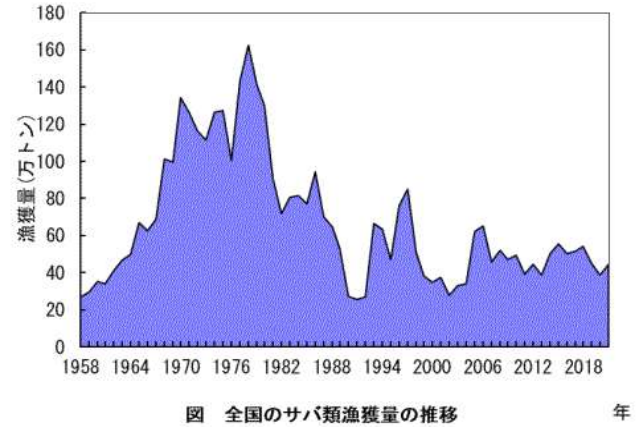
[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2021年は44万3千トンとなりました。



2. 県内の2023年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、10月に甑東、縄瀬でサバ類豆（0歳魚：2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。11月に牛深沖、縄瀬でサバ類豆（0歳魚：2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、11月に鷹島、宇治でゴマサバ中（3歳魚：2021年生まれ）主体の漁場が形成されました。12月にツクラ瀬、湯瀬でサバ類中、中小（3歳魚：2021年生まれ）主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では、期全体で589トンの水揚げで、前年の34%及び平年の22%でした。

3. 県内の2024年1～3月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中小～大（3～6歳魚：2018～2021年生まれ）

来遊量：前年を上回り平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期は、ゴマサバの産卵親魚群が漁獲の主体となります。前期の漁模様から、前年を上回り平年を下回ると考えられます。

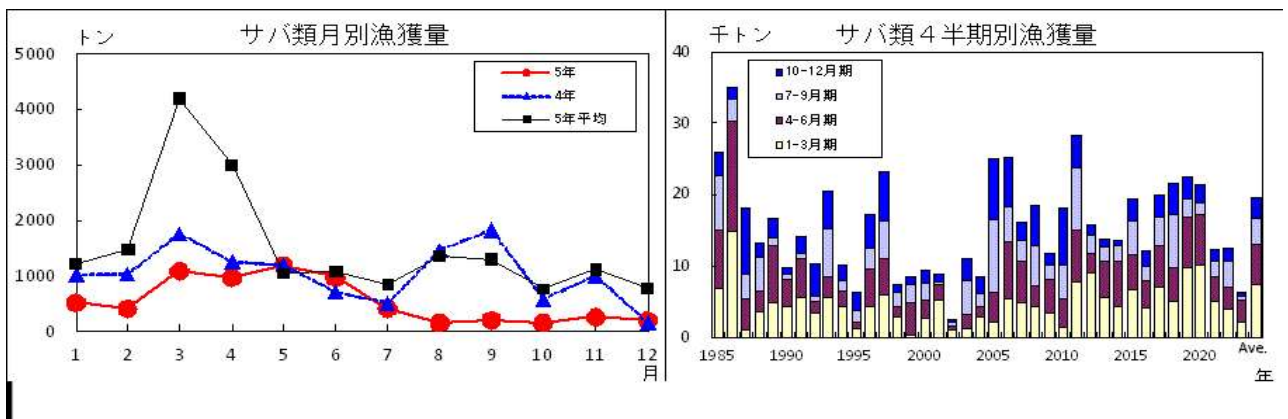


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年12月20日までの水揚量を使用

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2021年には68万2千トンとなりました。

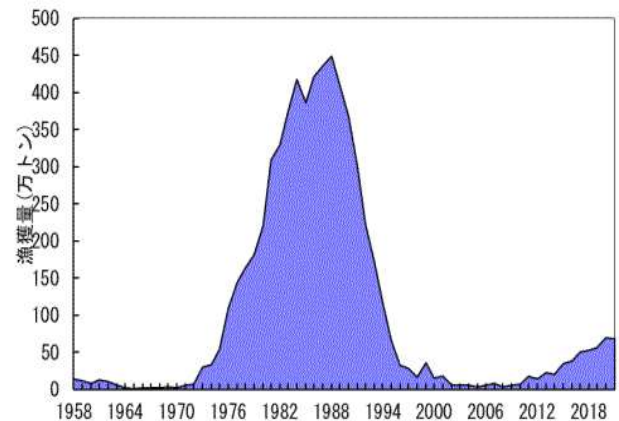


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の2023年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、10月に縄瀬、天草西沖、天草沖、11月に阿久根沖、10～11月に甑東で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、小～中羽（0歳魚：2023年生まれ）主体に2,037トンの水揚げで、前年の1,889%及び平年の445%でした。

北薩海域の棒受網では、小～中羽（0歳魚：2023年生まれ）主体に31トンの水揚げで、前年の839%及び平年の58%でした。

3. 県内の2024年1～3月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（1～3歳魚：2021～2023年生まれ）主体

来遊量：前年並みで平年を上回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は好調であった前年並みで平年を上回ると考えられます。

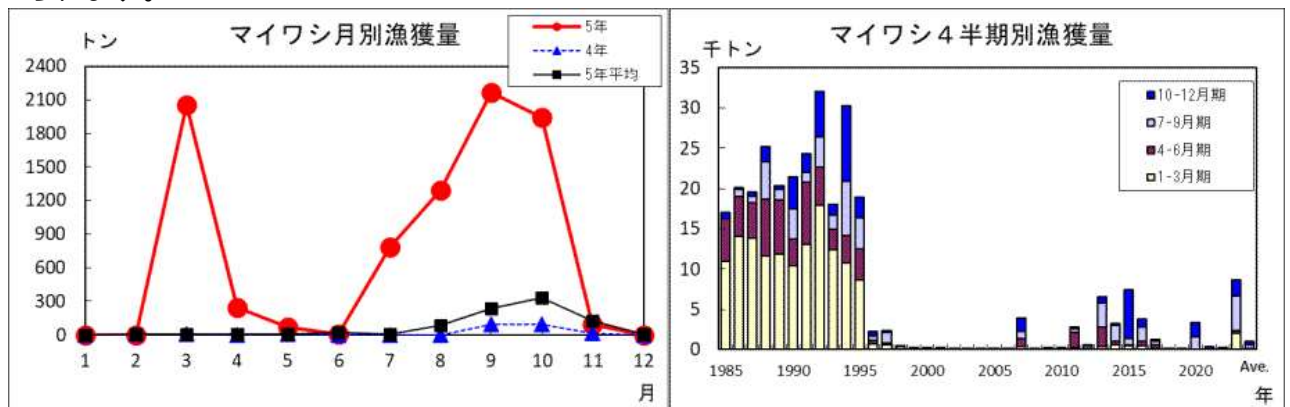


図 マイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値（AV）、2023年12月20日までの水揚げ量を使用

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。

2021年の漁獲量は2020年よりも3万トン増加し7万3千トンとなりました。

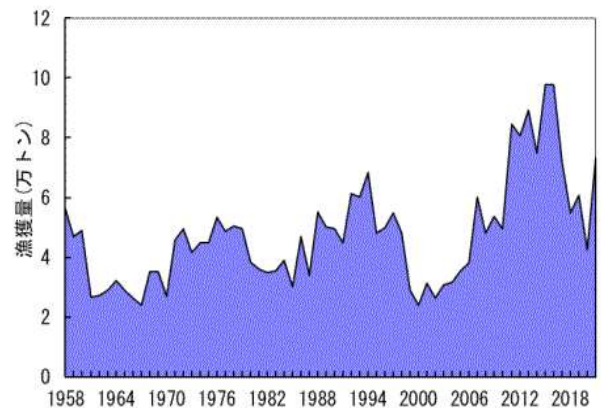


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の2023年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、10月に天草沖、甑西、11月に阿久根沖、10～11月に甑東、縄瀬、天草西沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、10月に枕崎沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～大羽（1～2歳魚：2021～2022年生まれ）主体に2,047トンの水揚げで、前年の472%及び平年の135%でした。

北薩海域の棒受網では、小～中羽（0～1歳魚：2022～2023年生まれ）主体に193トンの水揚げで、前年の154%及び平年の86%でした。

3. 県内の2024年1～3月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（1～2歳魚：2022～2023年生まれ）

来遊量：前年，平年を上回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年，平年を上回ると考えられます。

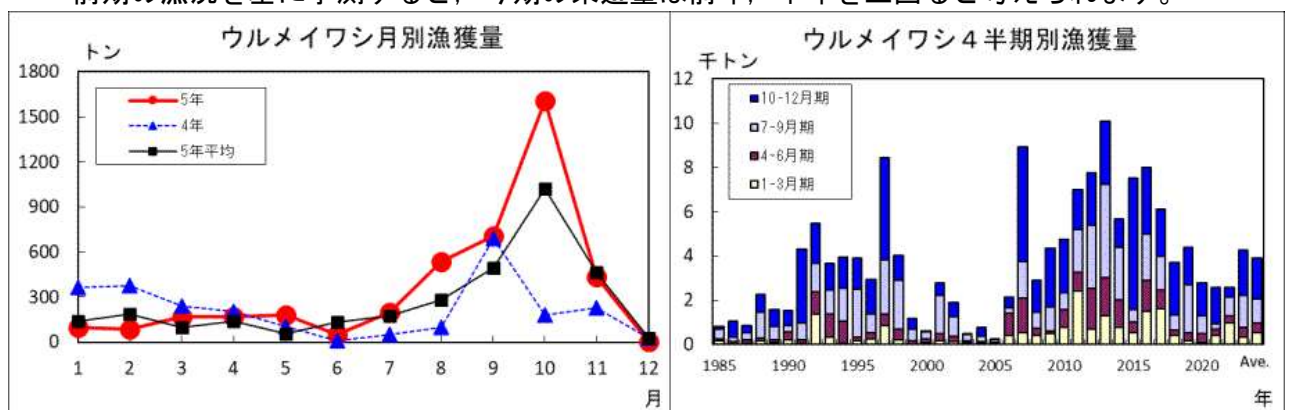


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2023年12月20日までの水揚げ量を使用

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2021年は11万9千トンとなりました。

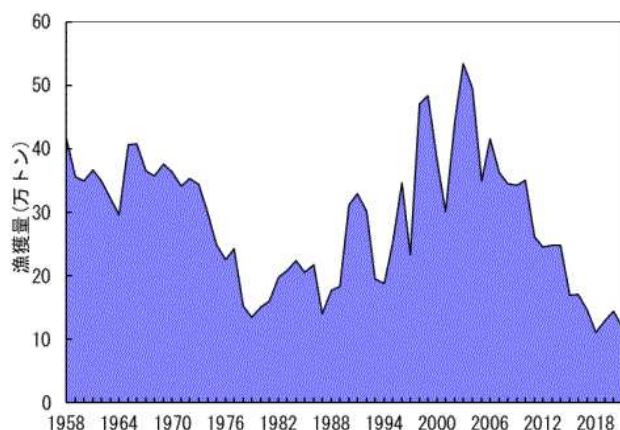


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の2023年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、10月に甑東、天草沖、11月に阿久根沖、縄瀬、10～11月に天草西沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、中～大羽（1～2歳魚：2021～2022年生まれ）主体に552トンの水揚げで、前年の1,024%及び平年の159%でした。

北薩海域の棒受網では、3トンの水揚げで、前年の114%及び平年の7%でした。

3. 県内の2024年1～3月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（1～2歳魚：2022～2023年生まれ）

来遊量：前年を上回り、平年を下回る

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年を上回り、平年を下回ると考えられます。

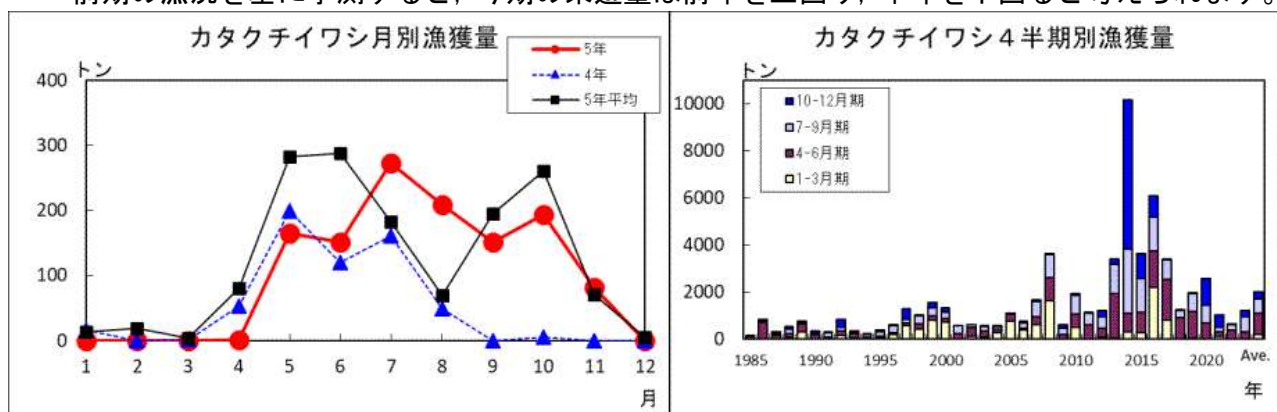


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値（AV）、2023年12月20日までの水揚げ量を使用

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、2002, 2003 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、2004 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、2005 年以降減少傾向を示し、2022 年は 168 トンと過去最低の漁獲量となりました。

志布志湾海域では、2007 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2022 年は 308 トンと過去最低の漁獲量となりました。

2. 2023 年 9 ～ 11 月の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に 29 トンの水揚げで、前年の 108 %、平年の 11 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 73 トンの水揚げで、前年の 182 %、平年の 25 %でした。

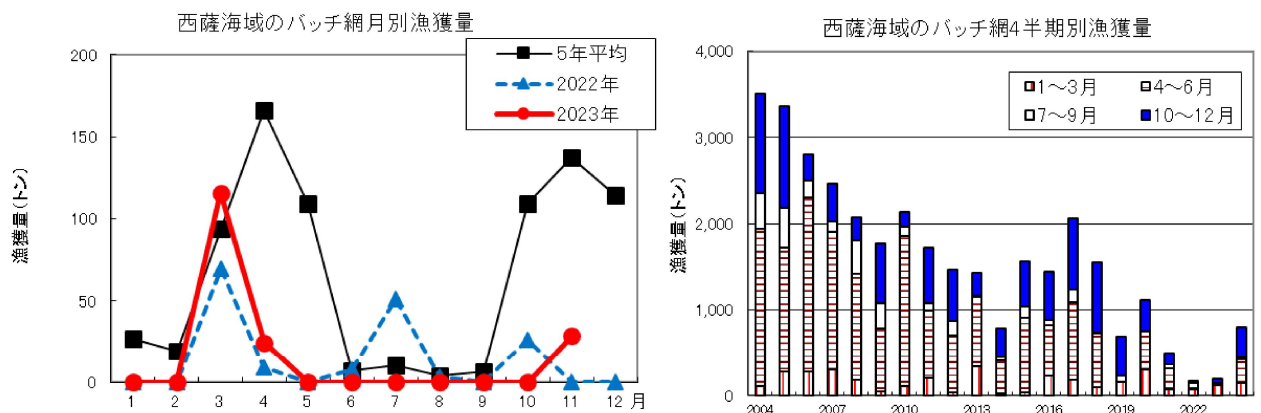


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化（4 漁協計）

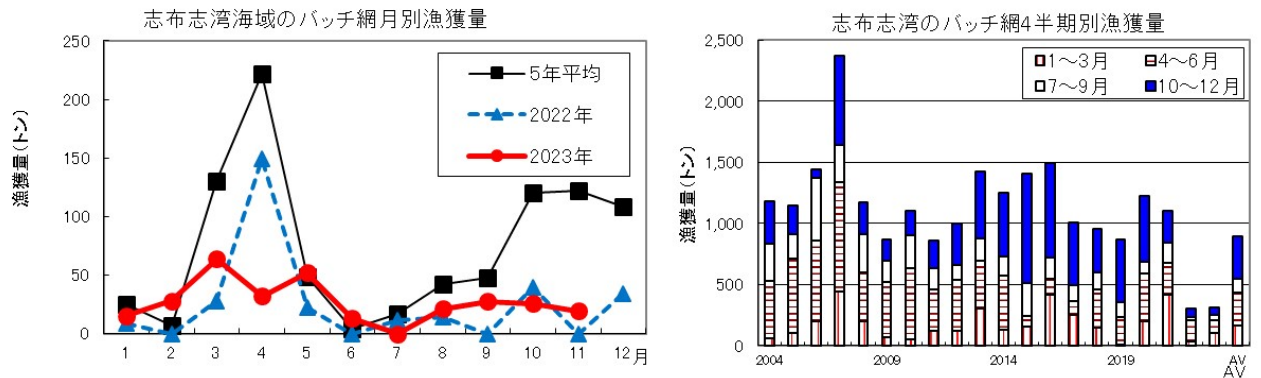


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化（2 漁協計）

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)，2023 年 12 月 20 日までの水揚げ量を使用

[イワシ類参考資料]

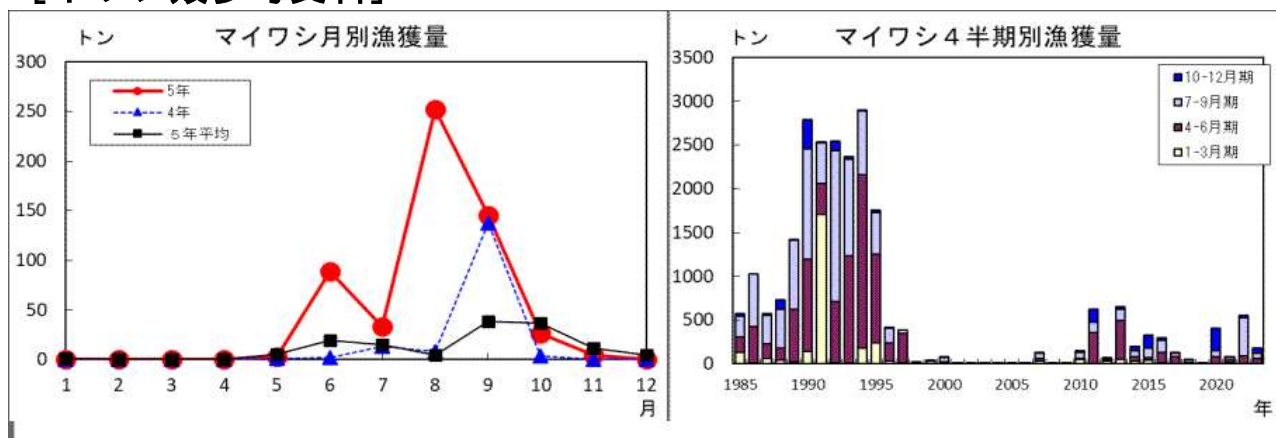


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

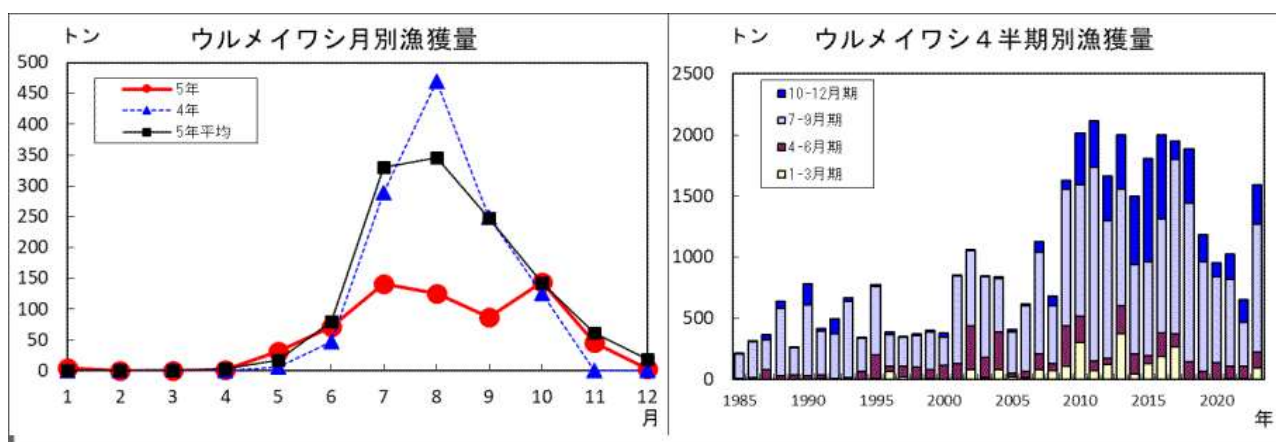


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

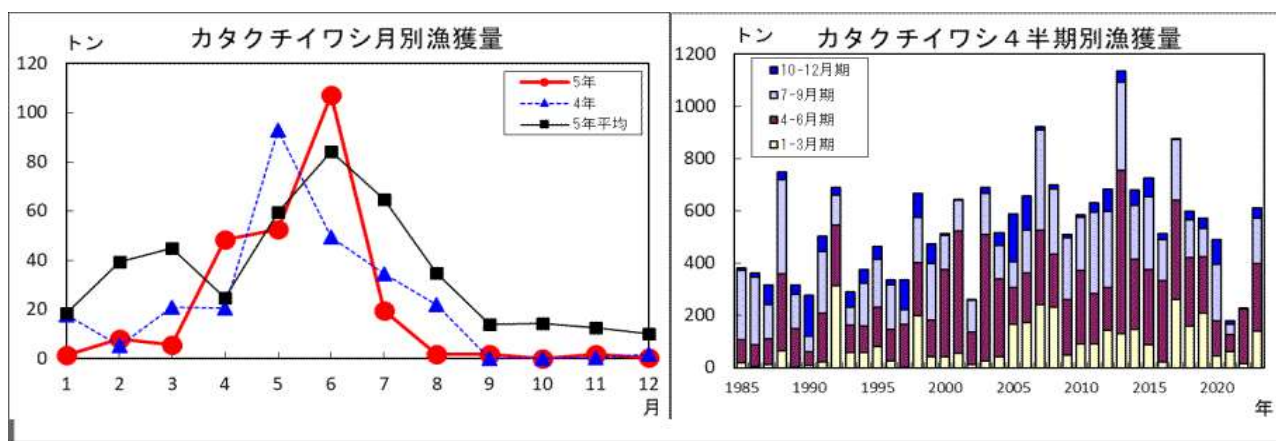


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年の平均値(AV), 2023年12月20日までの水揚量を使用

[ムロアジ類（参考：漁況経過のみ記載）]

〈クサヤモロ、ムロアジ、モロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トン进行ピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2022年は2,708トンとなりました。

2. 2023年10～12月の漁況の経過

4港計のまき網では、種子島東、島間沖、屋久島沖でクサヤモロ中小、小、豆主体の漁場が形成されました。期全体で1,079トンの水揚げで、前年の69%及び平年の71%でした。

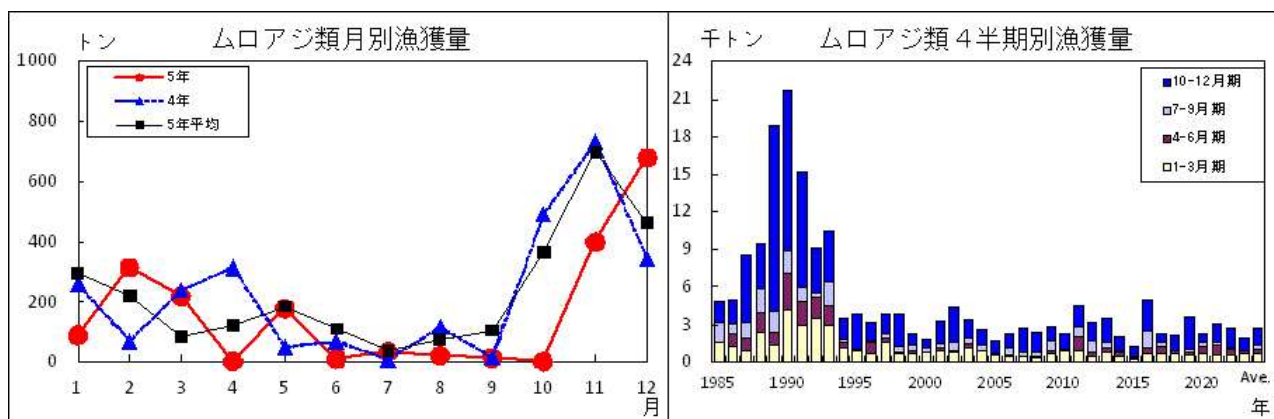


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年12月20日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移していたものの、2022年は195トンと減少しました。

2. 2023年10～12月の漁況の経過

4港計のまき網では、屋久島でオアカムロ中小主体の漁場が形成されました。期全体で80トンの水揚げで、前年の106%及び平年の32%でした。

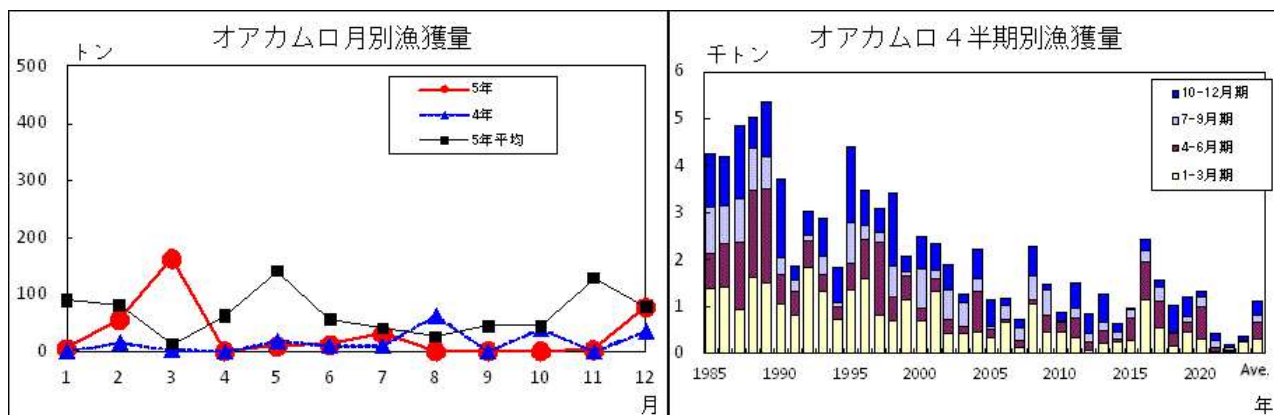


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年12月20日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4 港計）〉

1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987 年から 1989 年に 1,500 トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000 年から 2003 年に再度ピークを迎え 2003 年には 3,150 トンと最高を記録しましたが、2004 年以降は低調に推移し、2022 年は 217 トンとなりました。

2. 2023 年 10 ～ 12 月の漁況の経過

期全体で 4 トンの水揚げで、前年の 13 % 及び平年の 7 % でした。

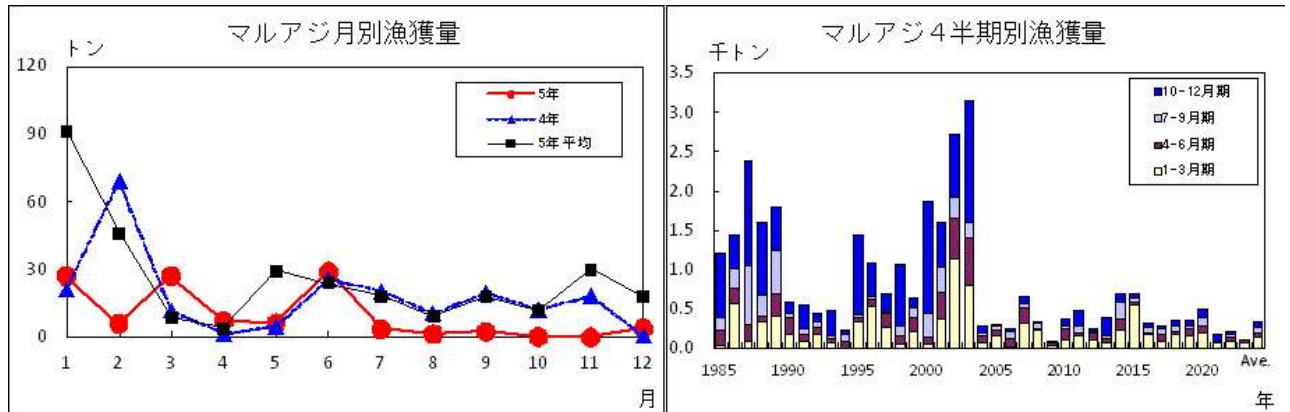


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)，2023 年 12 月 20 日までの水揚げ量を使用